## トップニュース

# 「困っている人に届けたい」

## 本派支援センター　支援物資を能登の寺院へ

### 能登半島地震

地震に加えて津波の被害も受けた石川県能登町の法栄寺。組長として鳳珠組内寺院の声を取りまとめる弘﨑信正住職(右)から要望を聞く本派支援センターのスタッフ（＝1月18日）

金沢別院（金沢市笠市町2−47）に1月8日に設置された「浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター」は、被災寺院などの要望を聞き、全国の本派関係者から寄せられた支援物資を寺院や避難所などに届けている。1月下旬の時点では、ライフラインの復旧が見通せず、避難生活を送る人が特に集中する石川県内を中心に支援している。1月17、18日、同センターの活動に同行した。

センターがある金沢別院の対面所。ブルーシートを敷いた室内には全国から寄せられた物資が、水や食品、日用品などの種類ごとに仕分けして集積されていた。

被災寺院や自治体、支援団体などと連絡を取り、活動の調整を行う「コーディネーター」として、本山・社会部〈災害対策担当〉と北海道、安芸の教務所、築地本願寺から職員4人が選抜され、このほか「緊急支援隊」として、宗派・本山から職員数人を常時派遣して物資の運搬などにあたっている。

17日午前、川井周裕センター長（社会部課長）が、能登町・法栄寺の弘﨑弘美坊守(70)の電話を受けていた。石川教区鳳珠組の組事務所として同町と穴水町、珠洲市にある組内9カ寺の状況や要望を取りまとめている。全寺院で依然として断水が続いており、特に生活用水、簡易トイレ、体ふきシートなどの要望が多いという。

要望を聞き取ると、直ちに物資を寺院ごとに分けて段ボール箱に詰めていくスタッフ。食料品と生活用品は別々の箱へ。レトルト食品も主菜に偏らないよう、レンコンのきんぴらや野菜の煮物など副菜にも気を配る。水と灯油はポリタンクの色を分けて準備した。

この日、要望のあった物資を現地に運び込むのは翌日。能登半島北部の被災地域へはいまだに各所で道路が損壊しており、金沢市内からは片道数時間を要する。スタッフは「困っている人に早く届けたい」という思いを募らせながら、作業にあたっていた。

18日は午前7時過ぎにセンターを出発し、能登町と珠洲市の4カ寺に物資を届けた。

庫裏や仮設建物に物資を運び込みながら、スタッフが「何か困っていることはないですか。今後必要なものは」と住職らに声をかける。津波で庫裏が床上浸水した法栄寺では、川井センター長が「雑巾も置いておきますね」と伝えると、弘美坊守が「助かります」と笑顔を見せた。

同町・浄専寺では若山峰人住職(57)が「大変な状況の中を届けていただき、物資とともに宗門の皆さんの温かなお気持ちもいただいている。本堂は柱がゆがんで立ち入れない。復興には時間がかかると思うが、組内の住職方やご門徒と力を合わせて前を向いて歩んでいきたい」と話した。

帰路は能登町役場でボランティアや炊き出しの情報を集め、午後5時半頃にセンターに到着した。その後はすぐにスタッフが事務所に集まり、現地で聞いた要望や被災地域への道路状況などについて情報を共有（写真）。中には「避難所にいるご門徒から『法話が聞きたい』という声が聞かれた」という報告もあった。

川井センター長は「移動や現地の状況も考慮して、当面は石川県内の被災地域に物資を届けていく予定。行政がボランティアの受け入れを始めれば、宗門の活動希望者へのコーディネートもしていきたい。息の長い支援が必要になる。皆さんのご協力をお願いしたい」と話す。

また、現地緊急災害対策本部長を務める同教区の中村祐順教務所長は「被災寺院はご門徒も多く被災されており、これからの護持・運営にさまざまな課題を抱えておられる。お念仏の仲間が希望を持って前に進めるよう、今後もご支援をお願いしたい」と話した。

◇

必要とされる支援物資など最新の情報は、金沢別院ホームページ、もしくはX（旧ツイッター）、インスタグラムなどから見ることができる。

問い合わせは同センター☎090（2565）5325、または090（2163）5325。

### 令和6年能登半島地震　災害義援金

【募金の名称】
浄土真宗本願寺派　たすけあい運動募金
「令和6年能登半島地震　災害義援金」

【受付口座番号】
・郵便振替　01000−4−69957
加入者名　たすけあい募金
・銀行振込
銀行　ゆうちょ銀行
店名　一〇九（イチゼロキュウ）店
番号　当座　0069957
名義　たすけあい募金

※通信欄に「能登地震」と明記し、住所、連絡先、領収書名のご記入をお願いします。圖本山・社会部〈災害対策担当〉☎075（371）5181。

## 広がる支援の輪

### 「私たちは動ける」

#### 高岡教区・若手僧侶の会

液状化地域の泥出しを手伝う僧侶たち（＝1月5日）

高岡教区（富山県西部）でも、氷見市など能登半島にある地域を中心に、地震で大きな被害を受けている。このことから同教区若手僧侶の会・鸞翔会（村上昂文会長、会員30人）は、教区内の被災寺院の要望を聞き、断水地域への給水など支援活動を始めている。

1月4日には会員ら40人余りが持ち寄った水2500リットルやスポーツドリンク、除菌シートなどをトラックに積み、断水する氷見市の2カ寺に届けた。自坊の井戸水をポリタンクに詰めて持参した高岡市・長光寺衆徒の織田朋希さん(29)は「自坊も仏具や墓石が倒れたりしたが、避難を強いられたりライフラインが断たれている方のことを思えば、私たちはまだ動く余裕がある。困っている方のお役に少しでも立てれば」と話した。

また5日には、富山湾に面した高岡市伏木地区の3カ寺から境内や近隣道路が液状化の被害を受けていることを聞き、10人が地域住民の泥出し作業に参加。側溝や道路に堆積した泥を土のう袋に集め、車の往来ができるようにした。

村上会長(36)は「もっとお力になりたいが、どんな支援が必要なのかという情報も入ってこず、今は手探りでできることを探している状態。宗派やほかの団体と協力して、支援の取り組みを続けていきたい」と話している。

### 「皆さんの力を」

#### 子ども食堂「えんまん」

避難所に弁当を届けるスタッフ（＝1月20日）

吉崎別院（福井県あわら市）など全国7カ所で子ども食堂を開く一般社団法人「えんまん」（八幡真衣代表＝石川県小松市・本光寺衆徒）は、地震発生翌日の1月2日から被災地域に物資を届ける活動を始めた。

スタッフ10人を中心に活動。京都市内のNGO「日本国際民間協力会」と連携して連日、輪島市内の孤立集落や行政の支援が行き届きにくい避難所を訪ねて、弁当などの食料や日用品、水などを届けている。

12日には現地の人の要望を受けて、避難所となっている輪島市の小学校でたこ焼きの炊き出しを行った。目の前で焼き上がった熱々のたこ焼きを囲みながら、「久しぶりに食事らしい食事をした」「『温かい』というだけでうれしい」と笑顔が広がった。

八幡代表(30)は「子ども食堂でご縁のある方々が県内外からたくさんの物資や活動資金を寄せてくださり、有り難い」と話す一方、「孤立状態は解消されつつあるが、支援が十分でない地域はまだ少なくない。インフラの復旧に時間がかかり、避難所生活の衛生面や、いつまでこの状況が続くかわからないことへのストレスも心配。現地の声や必要な支援をフェイスブックやインスタグラムで発信していく。ぜひ、皆さんのお力をかしていただきたい」と話している。


# 本願寺新報
hongwanji journal

2月1日（木曜日）

毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）本願寺出版社内
〒600-8501
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753



くるまのことなら　株式会社 平安オート
国産車・輸入車の販売・買取、車検、鈑金、塗装、保険代理店
■自動車販売・買取については 販売センター TEL:075-661-2572　■車検・修理については フロント・整備工場 TEL:075-661-0750


### 新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ　そのまま救う」の　弥陀のよび声
私の煩悩と仏のさとりは　本来一つゆえ
「そのまま救う」が　弥陀のよび声
ありがとう　といただいて
この愚身をまかす　このままで
救い取られる　自然の浄土
仏恩報謝の　お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された　歴代宗主の
尊いお導きに　よるものです

み教えを依りどころに生きる者　となり
少しずつ　執われの心を　離れます
生かされていることに　感謝して
むさぼり　いかりに　流されず
穏やかな顔と　優しい言葉
喜びも　悲しみも　分かち合い
日々に　精一杯　つとめます

### 赤光白光

3年前に、京都で世界宗教者平和会議50周年記念式典が開催された。その様子を紹介する新聞記事には、シンポジウムの講演内容を示す見出しに「共感力生かす社会重要」「地球として危機感共有を」と「共感」「共有」という言葉が並んでいた。この言葉はよく見聞きし、人口に膾炙する。それは、共感、共有するこころが失われていっている時代だとも言える。今こそ、この言葉のこころを思い起こし、大事にしていかねばと思うことである。

▼人間には、他人の感情を自分のもののように感ずる能力である共感が備わっており、他人の苦しみや悲しみを背負うことや、他人の喜びを自分のものとし、1人の世界の何倍もの喜びを得ることができるという。しかし、人の喜びを自分のものとすることは簡単なことではない。「隣の家に蔵が建つと腹が立つ」「隣の芝生は青い」という言葉があるように、共に喜ぶということは難しい。

▼仏典には、真の友とは互いによきことがあれば共に喜ぶ、とある。共に喜ぶ姿は美しく、崇高でさえある。仏教は一体感を説く教えである。相手を受け入れ、また、相手の中に自己を見出していく生き方と言っていいのであろう。

▼人間は1人で生きているのではない。私そのものも他によって私たらしめられており、私自身が他を他たらしめている。そこに気付く中に、人の悲しみを悲しみ、喜びを喜ぶというこころが起こり、その先に平和な社会の構築があるのではないだろうか。


親鸞聖人御誕生八五〇年　立教開宗八〇〇年　慶讃法要
NEW RELEASE
「いのちの季節」
1.生きる
2.パドマの華
3.娘たちよ
4.聖夜
5.のんのさま
6.本願力のめぐみゆえ
7.いのちの季節
8.念仏
9.しんらんさま・(二胡&雅楽)
10.恩徳讃(新譜)・(二胡&雅楽)
11.シルクロード・雅音・・(二胡&雅楽)
記念価格 2,000円(税込) 定価2,500円(税込)
二胡&雅楽で慈しみの心を奏でる！
※記念価格での販売は、下記お問合わせ先からのご注文に限ります。
二胡奏者・医学博士　姜 暁艶（ジャン ショウイェン）
《お問合わせ》二胡音楽院　TEL.082-222-8449　FAX.082-555-0533
〒730-0016 広島市中区幟町10-16 2F
E-mail:nikoongakuin@niko-jiang.com　http://www.niko-jiang.com/
CDのお求めはこちらから



最新刊　一縁会テレフォン法話集　一縁会 編
お念仏が「愛しているよ」と聞こえる
三重の真宗寺院5カ寺によるテレフォン法話を活字化。如来の私をすくう覚悟と自信に満ちた〈お念仏〉の教えについて、日常のできごとから味わうひと口法話30篇。
◉目次より　雑草という草はない（渡邊悌爾）／帰って来てくれて「ありがとう」（内田正祥）／親鸞聖人の直筆手紙からうかがえるお人柄（渡邊潤爾）／魚釣り（山田容子）／私の聞き方（内田正海）／久遠の仏（山田教史）／非常ベル（澗信輔）／寺が第三の居場所に！（渡邊充子）／夢の中の父（中澤見真）／真実はいつも一つ！（山田雅教）／ほか
B6判・並製・112頁　1100円

姉妹篇　一縁会テレフォン法話集　一縁会 編
阿弥陀さまの〝おはからい〟
はからわれて生きていることへの〈気づき〉と〈喜び〉をやさしく語るひと口法話30篇。
B6判・並製・112頁　880円
＊価格はすべて税込　＊送料・発送手数料：ご注文合計6,600円未満＝一律400円、6,600円以上＝無料
合同会社 自照社　ホームページ：https://jishosha.shop-pro.jp　【大田利生先生 書き下ろしコラム配信中!!】
滋賀県大津市日吉台4-3-7　電話：077-507-8209　FAX：077-507-9926



張り子人形
品質：和紙
彩色：アクリル絵の具　手描き着色
（紙箱入）
F7047　合掌人形 男の子
F7048　合掌人形 女の子
サイズ：高さ 7cm× 巾 4.2cm× 奥行 4.2cm
F7046　松若丸
サイズ：高さ 5.5cm× 巾 6.6cm× 奥行 3.5cm
F7045　合掌童子
サイズ：高さ 6.5cm× 巾 3.5cm× 奥行 3.5cm
井筒法衣店
600-8468
京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
Tel 075-351-1234
0120-075-720
Fax 075-341-7905
オンラインショップはこちらから